

令和6年度 江戸川区立篠崎第三小学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	「かがやけ藤三つ子」 かみがえる子【重点目標】 がんばる子 やさしい子 けんこうな子	目指す学校像	子供たちが、毎日生き生きと輝く学校 教職員が、働く喜びを感じられる学校 保護者・地域が、信頼を寄せる学校
前年度までの本校の現状	成果 確かな学力の定着に向け、確かな学力向上推進プランに基づいた授業を行い、補習等個に応じた指導を継続してきたことで、学力向上に向けての基礎作りができた。また、生活面では、豊かな心づくりの取組を行い、学校全体として、児童は落ち着いて学校生活を送ることができた。	課題	学力調査の結果は、徐々に向上しているが、都や全国の平均と比べると以前低い状況であった。また、生活指導面では個別の支援が必要な児童について組織的に対応していくことが必要である。

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価(A~D)		「中間」学校関係者評価(A~D)		「年度末」自己（学校）評価(A~D)		「年度末」学校関係者評価(A~D)		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力の向上	・「誰一人取り残さないための学力向上アクションプラン」に基づいた指導の実践	・毎学期2回の東京ベジックドリル診断テスト実施・分析・強化 ・家庭学習週間 学期2週間×3回	・東京ベジックドリル診断テスト7割達成者70%以上（令和8年度までに）。	B			○東京ベジックドリル診断テスト7割達成者が1学期57.4%、2学期が59.6%であった。4、5年生は今年度からの取組である江戸川区定年度調査の結果を使用しているため、正答率も下がり7割達成者割合も下がっている。 ○全国学力調査において、「授業時間以外の勉強時間」が1時間以上の割合は49%であった。しかし都の割合は62.2%、全国の割合は55%であり、都や全国と比べると本校児童の勉強時間は少ないことが分かる。家庭学習週間の取組の報告として、平均時間や児童の傾向を伝える保護者への各冊資料を作成した。 ○担任や外部講師による補習は予定通り実施できている。	B	○繰り返し取り返すことで、少しずつ数値が上がっている。繰り返しの大切さを子供たちに実感させた。 ○勉強時間を増やすためには、子供がタイミングテーブルで勉強している中で大人が勉強したり仕事をしたりすると良いのでは。					
	・教員の授業力向上	・教員の授業力向上を図る研究・研修の実施	・年間4回の校内研究授業実施。 ・年間3回のICT研修の実施。	B			○計画通り実施し、授業力向上に努めていた。夏季休業日中も研修に励み、学んできたことを共有する様子が見られた。	A	○指導力向上のため、教育委員会や講師の先生を招いて研修会やディスカッションを行っていることが良かった。 ○夏季休業日中にも教職員が105回の研修に参加し、研究と修養に努める姿は素晴らしいと思う。					
	・読書料の更なる充実	・読書を通じた探究的な学習の実施・充実 ・6月学校公開での全学級読書科公開 ・週2度の朝読書の実施	・週に2時間程度一人一台端末や図書館の蔵書を併用した主体的で探究的な学習活動の実施。	B			○年間35時間、読書料のねらいに沿った内容の授業を行っている。 ○図書ボランティアによる読み聞かせを毎週実施し、本に親しむことができた。 ○学校図書館はいつも整理されている。	A	○ウエズリーの会の読み聞かせは、子供たちの国語力を身に付ける一助になっていると思う。引き続きこの活動を実施してほしい。					
体力の向上	・運動意欲の向上に向けた取組の実施・充実	・体育学習の充実 ・体力の向上 ・教員の研修の充実	・江戸川っ子なわ鼓びチャレンジの取組を学期に1回実施。 ・体育実技研修を年4回実施。	B			○運動量を確認し、活動内容・活動場所を配慮した体育学習を実施することができた。 ○江戸川っ子なわ鼓びチャレンジウィークでは意欲的に取り組む姿が見られた。また、なわ鼓び教室では、できなかった技ができるようになった児童もいた。 ○体力テストはハッピーフレンズのグループを生かし異学年で実施した。	B	○今年度はなわ鼓びを通じて運動力を強化すると聞いている。外部講師の藤沢先生の技を見て良い刺激になったと思う。今後もプロの講師を迎え、本物の子供たちに教えてあげてほしい。					
	・より良い学習・生活習慣の育成	・生活リズムカードの実践と分析	・学期に1回実施 ・家庭との連携のもと、児童が自分で良い生活習慣を選び、行動する力を養う。	B		B	○7日間目標をもって取り組むことができた。朝食欠食や寝る時間については課題があるため、引き続き家庭と連携していく。	B	○子供だけでなく大人も一緒に学んだり、より良い生活を送ったりすると良い。 ○生活リズムカードの取組はもう少し長め（2週間など）でも良いと思う。					
共生社会の実現に向けた教育の推進	・特別支援学級との日常的な交流	・通常学級とはこへ学級の交流授業 ・行事での連携（学年とはこへ学級で合同）	・週1回～週2回程度の交流授業。 ・体育学習発表会や生活科・社会科見学、宿泊行事での連携。	A			○実態に合った交流学習、体育学習発表会での合同練習や発表を行うことができた。 ○生活科見学、社会科見学、叩たんけん等、学年とはこへ学級の連携は図ることができている。 ○休み時間の鬼ごっこ等、学年・通常学級・特別支援学級を問わず、遊んでいる姿が見られる。	A	○通常学級と特別支援学級の交流は、篠三の特色である。自然と心の教育が行われていると思う。					
	・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた園に応じた指導の充実	・巡回指導や特別支援教室専門員の活用 ・特別支援教育研修の実施	・週に1度、校内巡回後、効果的な指導・場面について情報共有。	B			○特別支援教育専門員や巡回指導教員、SC、巡回心理士、SSW等と連携を図り、個に応じた指導について情報共有を図ることができた。 ○研修は10月18日に実施予定。	B	○専門的な知識をもったいろいろな立場の方との連携を図り、その子や家庭に合った支援が受けられるようにしていきたい。 ○かえて教室の情報を知りたい。					
	・エンカレッジルームの活用促進	・エンカレッジルームの保護者への理解啓発	・保護者会などの機会を通じ、エンカレッジルームを周知。 ・HPに掲載。	C			○9月よりエンカレッジルームの運用を始めた。今後も利用状況を見ながら改善を加えつつ運営していく。	B	○エンカレッジルームの設置はとても良いことだと思う。その効果も検証できると良い。 ○知らない保護者もいると思う。周知できると良い。					
不登校の・充実に 対応	・不登校対策の実施・充実	・生活指導夕会における情報の共有 ・生活指導全体会における情報の共有	・週に1度開催。 ・学期に1度開催。	B			○生活指導夕会、全体会等、定期的に行い情報共有を図り組織的に対応できている。 ○いじめ対策委員会・不登校対策委員会では、関係機関と連携を図ることができた。 ○関係機関との連携により、以前より状況の改善が見られた。	B	○徹底的に児童に寄り添う対応を今後もお願いしたい。					
	・いじめ・不登校の未然防止・早期対応に向けた取組の充実	・いじめ対策委員会・不登校対策委員会の開催	・月に1度の開催、SCや巡回心理士も交えて対応策を検討する。	B			○月に1度開催し、対応策を検討している。SCや巡回心理士、SSW、児童相談所等と連携を図ることができた。	B	○今後も関係機関との連携を図り、いろいろな視点で子供たちを見守ってほしい。					
学校（園）の 地域社会に 開かれた 実現	・自校（園）の取組の積極的な発信	・年4回の学校公開の実施、学校説明会の実施 ・HPの更新	・HP更新目標 校長日記毎日 学年のページ →2週間に1度	A			○今年度より教室の中に入って授業を参観可とし、より近くで子供たちの学習の様子を感じてもらえるようになった。 ○校長日記を毎日更新し、学校の様子を日々伝えることができた。	A	○学校公開は通常の実施に戻りながらも受付にて名札の確認や記録の実施にて、新しい形で安全対策を実施していることは良い。 ○ホームページで学校の様子が公開されているのは、保護者にも教職員にとっても良いことだと思う。					
	・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施	・学校評議員会の実施（年3回） ・行事後アンケート実施 ・学校評価実施	・行事・学校公開後の保護者アンケート実施。 ・保護者・教員の学校評価実施（年1回）	B			○6月に学校評議員会を設け、学校評議員の方からのご意見を伺い、児童の授業の様子を参観していただけた。今後の学校運営に生かしていく。	A	○実際に子供たちの様子を見ることができると嬉しい。					
	・地域と連携した学習活動・体験活動の充実	・篠田堀親水緑道・江戸川の自然、生き物、歴史、環境を題材にした学習活動	・年1回以上の実施 ・学習したこと、そこから生まれた疑問や分かったことをまとめ、学級や学年、異学年児童に向けて発表する活動を実施	A			○予定通り実施することができている。夏季休業日中には、篠田堀30周年の記念イベントを本校で行い、6年生の篠田堀を描いた図画工作品や金管バンドの演奏で彩りを添えることができた。	A	○6年生の職場体験では地元のお店街を始め、近隣の事業所20ヶ所が関わっていた。地域と学校の関わりが強くなることはとても良い。					
教育の 特色ある 展開	・「学校における働き方改革プラン」に基づく取組の実施	・会議の精選。 ・時間に対する意識の向上 ・ICTの活用 ・教員以外の人材活用と連携	・授業準備の時間を確保。 ・プレミアムDayの設定と実施（定時退勤日）。 ・月残業80時間の教員をゼロへ。	B			○校務分掌組織の改善や会議の精選、連絡指示板やTeamsの活用、人材の活用により、月残業平均時間は概ね45時間程度となっている。しかし、教員によって差が見られるので、次年度に向けて原因を分析していく（分業の偏り等）。	B	○教員の仕事はブラックのイメージが強いので、いろいろな工夫により残業時間は以前より少なくなっていると聞いて良かったと思う。					
	・異学年集団での活動の充実	・篠三まつり ・ハッピーフレンズ ・クラブ活動 ・委員会活動 ・登校班会議での顔合わせと登校班での登校	・9月実施 ・年間7回実施 ・年間10回実施 ・年間10回実施 ・4月、10月、3月実施。	A			○1学期は登校班、縦割り班、クラブ活動、委員会活動を予定通り実施することができた。	A	○定期的な交流があるのは良い。 ○篠三まつりでは児童が考え工夫した店舗が並び、いろいろな人の気持ちを考えながら運営したり楽しんだりすることができたと思う。 ○全校朝会では学校や校外活動で活躍した児童を表彰しているのは素晴らしい。					